

# 聖域なき構造改革

## 15年 2月期 営業利益50億円

アジアなどは攻め

### TSIホールディングス中計

昨年6月1日に東京スタイルとサンエー・インターナショナルが経営統合して設立したTSIホールディングスは、14年度(15年2月期)を最終年度とする中期経営計画を策定した。事業初年度である前期に大幅な赤字を計上したことから、業績が悪化している東京スタイル単体を主体に不採算ブランド・売の場を整理するなど「聖域なき構造改革」を最重点に進める。並

行して、「両社の強みとノウハウを最大限に活用」(三宅正彦会長兼社長)し、グループ全体として百貨店以外の販路拡大や新規事業開発、アジアでの事業強化に取組む。これらの施策によって、14年度の連結売上高を2200億円(前期1478億円)、営業利益50億円(営業赤字69億円)とし、「次の段階の目標である営業利益率8%につなげる」方針だ。

今期は連結売上高を1990億円、営業赤字を2億円に縮小し、経常損益を3億円の黒字(前期122億5500万円の赤字)に転換させる計画。来期

に東京スタイル単体を含め、営業赤字化をめぐす。今期の事業会社別業績計画(連結消去前)は東京スタイルグループが売上高848億63

00万円(前期比21%増)、営業赤字17億6400万円(前期営業赤字69億3500万円)、サンエー・インターグループが売上高1150億7100万円

(48%増)、営業利益15億9400万円(2173.5%増)。大幅増収となるのは、東京スタイルグループで前期に買収した5社の業績が通年で寄与し、サ

ンエー・インターグループが前期は9カ月決算(11年6月～12年2月)だったことが主因。前期に売上高148億8100万円(40.4%増)と伸ばした東京スタイルグループのセレクトショップ、ナノ・ユニバースや6.1%増収のサンエー・インターの基幹ブランド「ナチュラルビューティーベージュ」なども増収に寄与する。

今期は前期赤字の大きな要因となった東京スタイル単体を本格的に立て直す。今期から三宅TSI会長兼社長が同社社長を兼務して経営体制を刷新、「抜本的な事業構造改革に取り組む」。

上期までに計5ブランドを廃止(前期末に実施した3ブランド含む)、「下期以降も複数のブランドを整理する」考えだ。これにより、今期は売上高240億円(11.2%減)、営業赤字56億円(前期赤字損失83億500万円)を見込む。TSI全体として、ブランド

・売の場の撤退と立ち上げの統一基準を設け、来期以降もサンエー・インターを含め、スクラップ・アンド・ビルドを加速する。グループ全体の問接部門の一元化やIT(情報技術)部門の外注化、部門別の人員構成の見直しなどにも取り組む。業務が重複する子会社の統合も進める。

並行して、増収策も進める。14年度に既存販路(百貨店、駅ビル・ファッションビル含むSC)の売上高を1600億円(前期実績143億円)、ネットや駅構内など新規販路の売上高を250億円(100億円)、海外売上高を150億円(70億円)、アパレル・服飾雑貨以外の売上高を200億円(165億円)にする計画。既存販路は前期までに買収した子会社を含め、百貨店以外への出店を加速、新規販路とアパレル・服飾雑貨以外の事業はサンエーグループを軸に新業態開発を積極化する。

海外は買収した子会社のブランドを中国などで展開、TSIと事業会社の共同出資による販売会社を設立し「小売の事業のプラットフォームを構築する」。東南アジアでの販売も本格化する。企業のM&A(企業の合併・買収)も実施する意向だ。